

ポピヨドン[®]10%綿棒 16

ポピヨドン[®]10%綿棒 20

10%ポビドンヨード液含浸綿棒

貯法：直射日光を避けて
室温保存
使用期限：容器に記載

	ポピヨドン10%綿棒16	ポピヨドン10%綿棒20
承認番号	22200AMX00698000	22200AMX00699000
薬価収載	薬価基準未収載	
販売開始	2010年9月	

【禁忌(次の患者には使用しないこと)】

本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】**1. 組 成**

販売名	成分・含量	担体	添加物	含浸量
ポピヨドン 10%綿棒16	本溶液 1 mL中ポビ ドンヨード100mg (有効ヨウ素として 10mg)	綿棒	ラウロマクロ ゴール、グリセ リン、乳酸ナト リウム、ヨウ化 ナトリウム、 pH調整剤	綿棒 1本あ たり本溶液 4 mL
ポピヨドン 10%綿棒20				綿棒 1本あ たり本溶液 9 mL

2. 製剤の性状

本溶液は暗赤褐色でわずかに特異なおいがある。

【効能・効果】

手術部位（手術野）の皮膚の消毒、手術部位（手術野）の粘
膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒、熱傷皮膚面の消毒、
感染皮膚面の消毒。

【用法・用量】

- (1) 手術部位（手術野）の皮膚の消毒、手術部位（手術野）の
粘膜の消毒：本剤を塗布する。
- (2) 皮膚・粘膜の創傷部位の消毒、熱傷皮膚面の消毒、感染皮
膚面の消毒：本剤を患部に塗布する。

【使用上の注意】**1. 慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)**

- (1) 甲状腺機能に異常のある患者〔血中ヨウ素の調節ができ
ず甲状腺ホルモン関連物質に影響を与えるおそれがある。〕
- (2) 重症の熱傷患者〔ヨウ素の吸収により、血中ヨウ素値が
上昇することがある。〕

2. 副作用

総症例2,377例中副作用発現は4例0.17%であり、その内容
は痒痒感2例、灼熱感1例、発疹1例であった。(再評価結果)

(1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー様症状(呼吸困難、不快感、
浮腫、潮紅、蕁麻疹等)(0.1%未満)があらわれること
があるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合
には、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

種類\頻度	0.1%未満
過 敏 症 ^(注)	発疹等
皮 膚	接触皮膚炎、痒痒感、灼熱感、皮膚潰瘍、 皮膚変色
甲 状 腺	血中甲状腺ホルモン値(T ₃ 、T ₄ 値等)の 上昇あるいは低下などの甲状腺機能異常

注) 症状があらわれた場合には、使用を中止すること。

3. 妊娠、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中及び授乳中の婦人には、長期にわたる広範囲の使用
を避けること¹⁾。

4. 臨床検査結果に及ぼす影響

酸化反応を利用した潜血試験において、本剤が検体に混入
すると偽陽性を示すことがある²⁾。

5. 適用上の注意**(1) 使用部位**

外用にのみ使用すること。

(2) 使用時

ア) 大量かつ長時間の接触によって接触皮膚炎、皮膚変色
があらわれることがあるので、溶液の状態で長時間皮
膚と接触させないこと³⁾。(本溶液が手術時に体の下
にたまった状態や、ガーゼ・シーツ等にしみ込み湿っ
た状態で、長時間皮膚と接触しないよう消毒後は拭
き取るか乾燥させるなど注意すること。)

イ) 眼に入らないように注意すること。入った場合は、水
でよく洗い流すこと。

ウ) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を
洗い落としてから使用すること。

エ) 電気的な絶縁性をもっているため、電気メスを使用す
る場合には、本溶液が対極板と皮膚の間に入らないよ
うに注意すること。

6. その他の注意

- (1) 本溶液を新生児に使用し、一過性の甲状腺機能低下を起
こしたとの報告がある⁴⁾。
- (2) ポビドンヨード製剤を腔内に使用し、血中総ヨウ素値及び
血中無機ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある⁵⁾。
- (3) 本溶液を妊婦の腔内に長期間使用し、新生児に一過性の甲
状腺機能低下があらわれたとの報告がある⁶⁾。
- (4) ポビドンヨード製剤を腔内に使用し、乳汁中の総ヨウ素
値が一過性に上昇したとの報告がある⁷⁾。

【薬効薬理】

本剤は無菌試験に適合した外用殺菌消毒剤である。

有効成分であるポビドンヨードはポリビニルピロリドンと
ヨウ素の錯化合物で、ヨウ素を遊離することにより殺菌作
用を示し、その作用は持続的である。

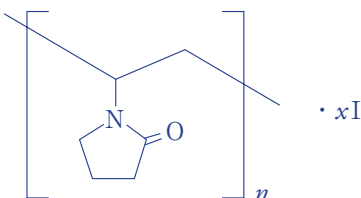
抗菌スペクトルは広く、グラム陽性菌・陰性菌、真菌、結
核菌及びHBV、HIVを含む一部のウイルスに有効である。ま
た抗生物質耐性菌にも有効である。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：ポビドンヨード (Povidone-Iodine)

分子式：(C₆H₉NO) *n* · xI

構造式：



化学名：Poly [(2-oxopyrrolidin-1-yl)ethylene] iodine

性 状：ポビドンヨードは暗赤褐色の粉末で、わずかに特異
なおいがある。水又はエタノール (99.5) に溶
けやすい。本品1.0gを水100mLに溶かした液のpHは
1.5～3.5である。

【取扱い上の注意】

1. 本剤は体腔内（腹腔内、胸腔内等）に使用しないこと。
2. 綿棒や薬液を継ぎ足して使用しないこと。
3. 綿に指が触れないよう注意すること。
4. 衣類についた場合は水で容易に洗い落とせる。また、チオ硫酸ナトリウム溶液で脱色できる。

【包 装】

ポピヨドン10%綿棒16：1 本入り×50

ポピヨドン10%綿棒20：1 本入り×20

【主要文献】

- 1) Danziger, Y., et al. : Arch. Dis. Child., 62 : 295, 1987
- 2) Bar-Or, D., et al. : Lancet, 2 (8246) : 589, 1981
- 3) Okano, M., : J. Am. Acad. Derm., 20 (5) : 860, 1989
- 4) 竹内 敏ほか：日本小児外科学会雑誌、30(4)：749, 1994
- 5) 小室順義ほか：産科と婦人科、52(10)：1696, 1985
- 6) 大塚春美ほか：第30回日本新生児学会総会学術集会プログラム：328, 1994
- 7) 北村 隆ほか：Progress in Medicine, 7 (5) : 1031, 1987

【文献請求先】

吉田製薬株式会社 学術部

〒164-0011 東京都中野区中央5-1-10

TEL 03-3381-2004

FAX 03-3381-7728